



時宗布教伝道研究所 研究員 小田義宗

今回はお釈迦様成道の地、インド四大仏跡の一つである『ブッダガヤ』のお話です。

このブッダガヤという町はお釈迦様が菩提樹の下で成道（悟りを開くこと）された地で、インド四大仏跡の中でも建物・観光客・参拝者数などれをとつても最大規模です。仏教にとつての最高の聖地はここであると言っても過言ではありません。それではまず、その悟りを開いた場所にある『菩提樹と金剛宝座』を祠る大塔（マハボデー）を中心に



お話ししたいと思います。

この大塔は高さ約52mあり日本の建物でいうと15階程度に相当しますが、近辺に高い建物がないだけにその雄大さには圧倒されます（右写真）。またその創建は紀元前

3世紀頃とされ、7世紀頃には現在の形になっていたことが知られています。しかしその後イスラムの侵攻にあい、破壊を免れるため大塔に土をかぶせて小山にみせかけることで難を逃れましたが、こんどは掘り起こされることなく有史から消滅してしまうことになりました。

そして時を経て19世紀になりやっとその存在が再発見されるのですが、今度はこの大塔が仏教遺跡でなくヒンズー教寺院の旧跡として解釈されてしまっています。このような幾多の苦難を乗り越え、ようやく大塔を含めたこの地が仏教の聖地であることが再認識されてからは、その周囲にお釈迦様成道の地を守護するかの

ように、仏教各国の寺院が建てられていきました。現在は国際色豊かな場所となり、発掘されてから130年程でも美しい聖地としてよみがえっています。

またここから車で数分の場所には、お釈迦様が沐浴をされた尼連禪河が流れ、スジャータが乳粥を供養した場所や、5人の仲間と共に厳しい修行をされた苦行林、前正覚山があり、お釈迦様を五感でもって感じる事ができます。

このように現在では世界各地からの参拝者が絶えない一大聖地ですが、お釈迦様生誕地ルンビニと同様に私たちがいま当たり前のように参拝できることは、とてもありがたいことであるのです。

◆インドのお金事情

まずインドの流通貨幣についてですがコインをほとんど見かけることがなく、お金ほほはお札のみです。またその全てにガンジーさん（左下写真）が印刷されているため、最初は見分けがつき難いと思います。そしてチップについては通常50ルピー程（日本円で約70円）で大丈夫ですが、「お金を持っている人が施すのは当たり前」という社会ですから、働いてもらった時には必ず用意してあげて下さい。しかし逆に可哀想だからとか、子供がねだるからといって何もしない人にお金や物をあげてしまうと、「私も、私も」の負のスパイラルにハマりますのでご注意を…。



またお店などで釣りをもちょうろの際の金額確認は必ず行って下さい。枚数が違うどころか、たまにインド紙幣でないものが紛れ込んでいる時もありました。海外へ行くと、日本が改めて平和な国であることを再確認させられますね。